

ドレークで「7.4G」を出力(約10mW) J A B N K

1. ドレークで2.51Gを発振

VCOの負荷コンデンサーを取り去り「0.6P」を取り付ける。

0.6Pは、1Pと1.5Pを直列で合成して、「逆V」の状態
取り付ける。(PLLのロック電圧が3~6Vに入る)

2. 7.53G通倍器

セブロン製でドレーク用の5.9G基板を使用しました。

セブロン製の5.9G基板の改造は、BPFが5.9G帯なので、7.5G
にするため、3本とも3mmカットする。(両端から1.5mmずつカット)

電源は、8Vの3端子を取り付け、5Vラインを8Vラインにする。

初段は、ドレークからの取り外し品 FSC-11 を使用。(R150 オム)

2段目は、6.5G対応の「SNA-486」を使用。(S4 記号で、8V R47 オム)

(デバイスはセブロンから入手)

基板の入力ラインとG間に「1P」をつける。(写真 参照)

BPFのスタブ調整で、約11dbm(2台目は約12dbm)で再現できた。

2倍波(不要波)の、5.02Gはスタブの調整で最低になるよう調整する。

重要：：基板の入力ラインの「1P」がないと2-3mWで、添付写真の
1Pの効果が大きい。(この「1P」と位置で10mW以上にUPする。)

以 上

このページの写真は、更新履歴「135G信号源の製作」参照

http://jh0ygp.org/exp/MAKE/bnk/2012/12_04_14/ja0bnk_135g_sg_12_04_14.html

2012-11-23 一部校正